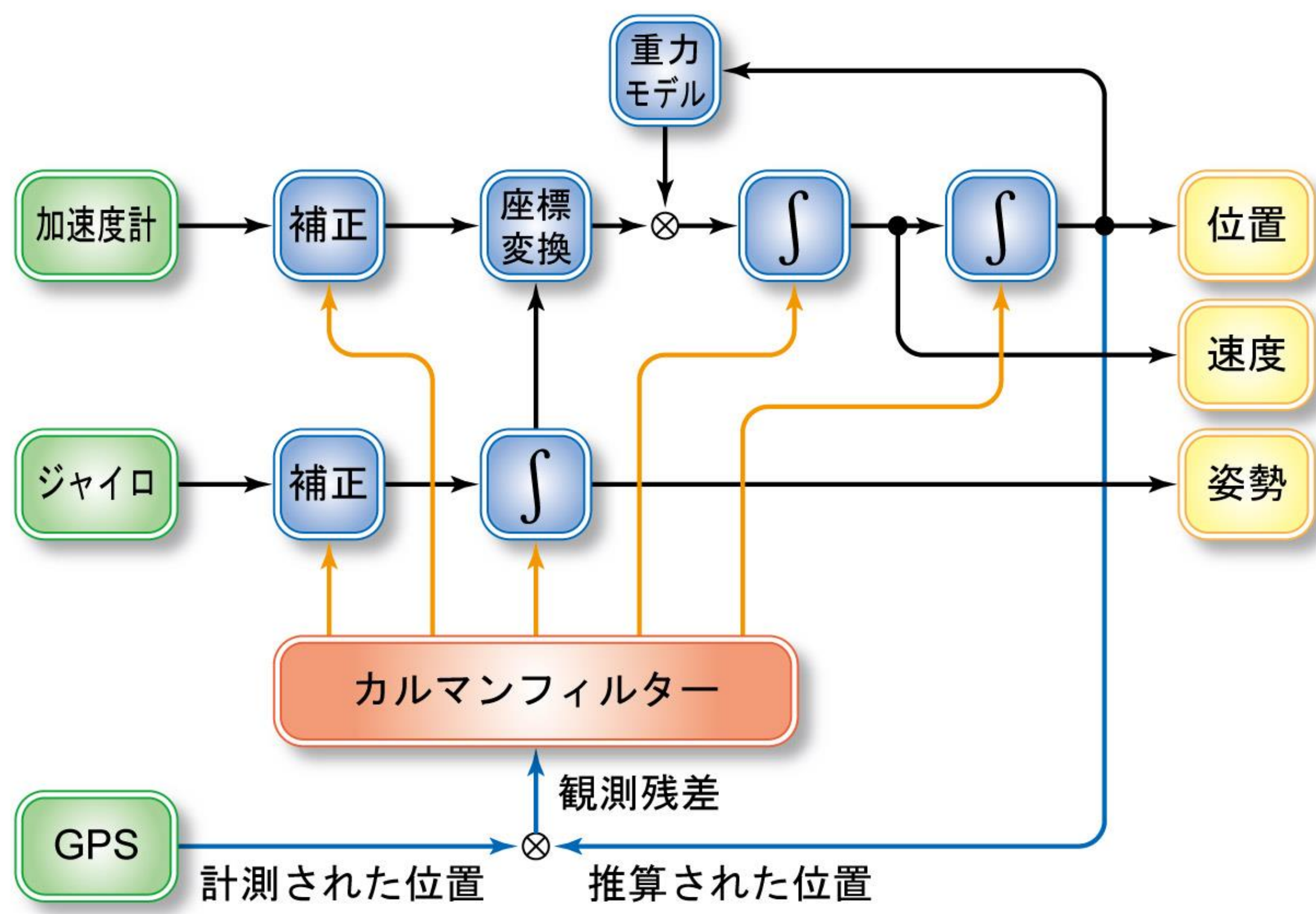


01 JAXAにおける航法技術の研究開発実績

GPS/INS複合航法アルゴリズム



実践



高速飛行実証(HSFD) フェーズI/II



成層圏プラットフォーム 定点滞空試験機



小規模飛行実験機 (SSRV)

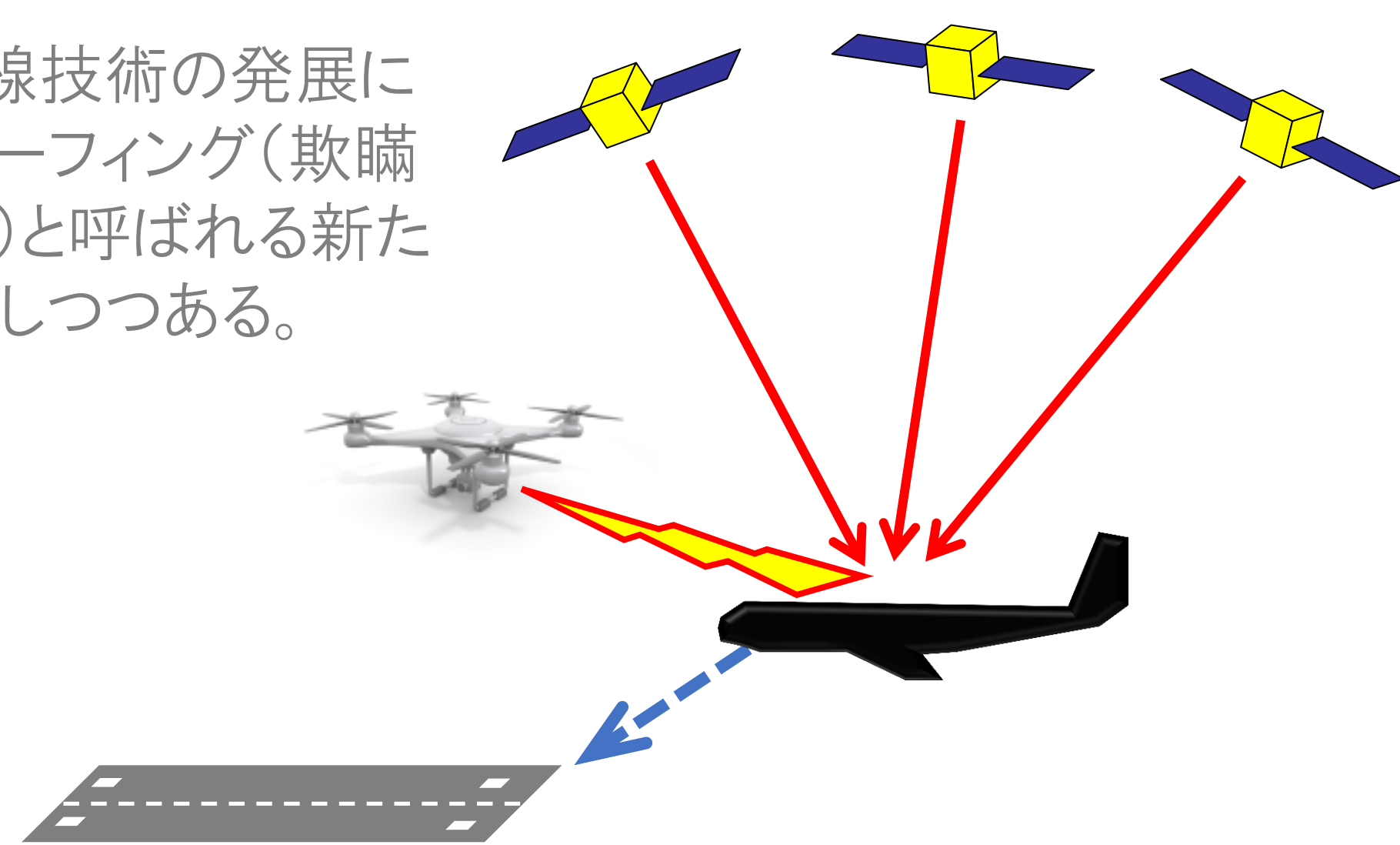
基礎研究にとどまらず、実践的な研究開発を経て、各種プロジェクトにおける無人航空機の主航法装置として採用

先進的な技術開発への流れ

社会実装の実現への流れ

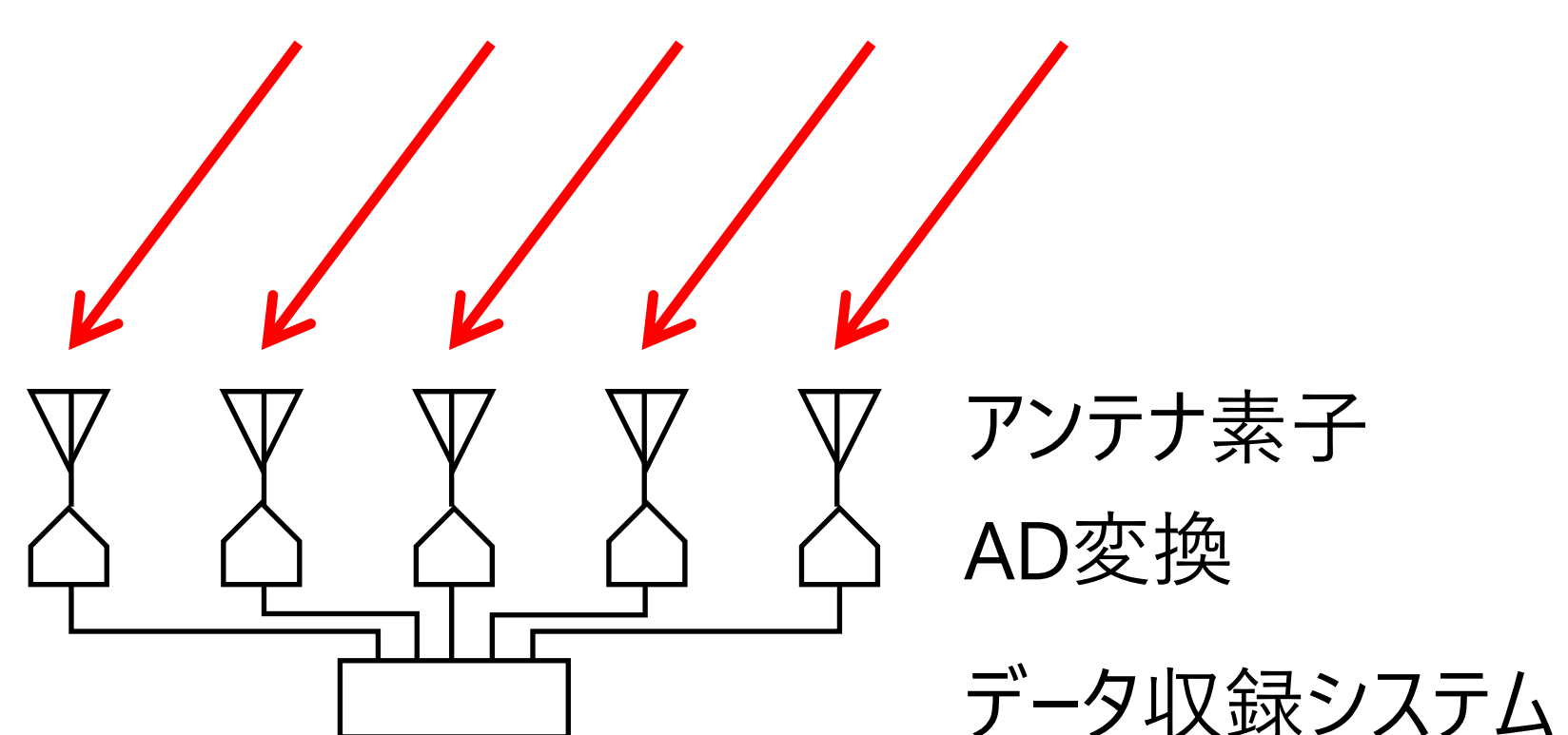
02 耐障害性の向上

- 航空局が掲げる長期ビジョンCARATSが「全飛行フェーズでの衛星航法の実現」を目指す一方、衛星航法の脆弱性が近年、急速に高まっている。
- ソフトウェア無線技術の発展にともない、スプーフィング(欺瞞波、なりすまし)と呼ばれる新たな脅威が出現しつつある。



対策

ビームフォーミング技術の適用



複数のアンテナ素子で受信した信号の位相を制御し、特定の方向から到来する信号の受信感度だけを上げることで、他の方向から到来する不要波の受信を抑制する。

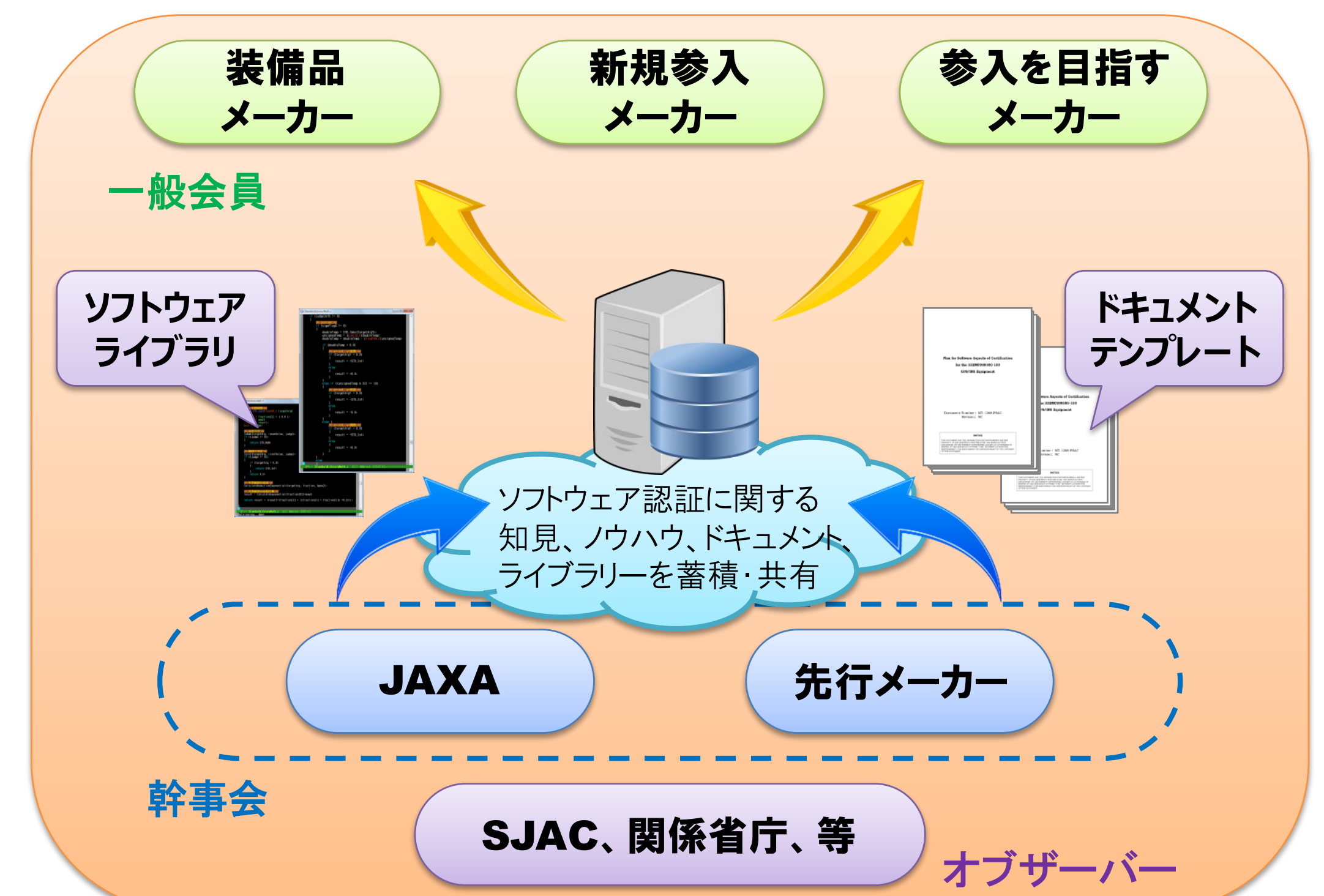
03 認証技術の蓄積と共有

国内装備品産業の現状

- 我が国の航空機産業の抱える**最重要課題の一つが装備品産業の遅れ**
- 航空機の**中核であるアビオニクス**(航空用電子機器)のほとんどは外国製品に依存
- 国際規格に準拠した**ソフトウェア開発経験の蓄積**が装備品認証における最大の課題

設立

航空機装備品ソフトウェア認証技術イニシアティブ



- ソフトウェア認証に関する**知見、ノウハウ、ドキュメントテンプレート、ソフトウェアライブラリー**を蓄積・共有
- ソフトウェア認証に関する**教育プログラム(セミナー等)**や**技術研究会**の開催
- 海外の認証機関や規格団体(RTCA、SAE、等)**との関係構築および日本のプレゼンスの向上
- 活動の周知および新規会員発掘のための**シンポジウムの開催**(2019/3)
- 産業界主導の持続可能な**新たな体制の構築**と活動の引き継ぎ(2020/4～)